

●行事案内

◆第60回自治体学校in福岡

日時：7月21日(土)～23日(月)

会場：福岡市市民会館
西南学院大学

論題：

(1)府県・大都市の自治と行財政(仮)

報告者：遠藤宏一(元南山大学教授)

(2)草の根NPOと地縁組織との協働の課題
ー市民組織の資源の視点からー

報告者：島田善規(リニモネット代表)

◆第22回都市再生プラン研究会

日時：7月22日(日)13:30～

会場：イーブルなごや 第2集会室

高山市まちづくり研究会が発足



設立の経過を報告する伊藤世志希代表

高山市まちづくり研究会が2018年5月12日に発足しました。結成総会では規約、代表世話人、事務局長、世話人(11人)を決めました。会報は、当面、年4回発行することにしています。自治体問題研究所からはお祝いと連帯のメッセージもいただきました。全国の「まち研」活動とも連携していきたいと決意を新たにしています。まち研通信の創刊号での代表あいさつを紹介します。

〈代表あいさつ〉

日本創生会議が消滅可能性都市を発表してから約4年が経ちました。当時、私はまだ先のこととあまり関心持たず、減っていく人口、高齢化する地方と言われてもピンと来ませんでした。

しかし私が関心を持たなくても自治体は「消滅してなるものか」と人口の奪い合いが始まりました。手っ取り早く人口を増やすには転入者を増やすことであり、自治体も住民も「よそから奪ってくる」この発想に囚われてしまいました。

私がこうした問題に関心を持つようになったのは今いる住民に声を傾け自治体と住民がいっしょになって「循環型社会」を作っている自治体を知ったことでした。住民が

自治体に参加し自治体が住民に還元していくシステムを作ろうと奮闘している「小さくても輝く自治体」でした。

高山市では合併後、面積は大きくなりましたが、過疎地ではさらに過疎に都市部は都市部で地価の上昇や観光客の増加と反比例して閉店したお店が目立つようになりました。私はこの高山の地でどうやって「循環型社会」を作っていくのか？高山市のどこに住んでも輝くにはどうすべきか？とみんなで考えていける自治体になってほしいと願い自治体問題に取り組んでいきたいと思えます。

高山市まちづくり研究会
代表 伊藤 世志希